

令和5年度 とやま新時代創造創造プロジェクト学習推進事業  
**実施報告書【学校課題実践校用】**

学校番号	3
学校名	富山県立新川みどり野高等学校

学校の現状と課題	様々な悩みや問題を抱えている生徒等、多様な生徒が学んでいる。学校行事や生徒会活動、部活動を通して自己有用感を高める工夫が求められている。また、基礎学力や社会的自立のために必要な能力を養うため、生徒理解や授業改善等の研修会を充実させることで、生徒の学ぶ意欲を伸ばしたい。	
テーマ(特色)	多様な生徒への支援の充実	
設定した「テーマ」の達成状況	(1) 生徒理解の推進 教職員が生徒の特性について理解を深め、日常的な「気づき」「特性の理解」「可能な支援の発見」につながるよう教員の意識が少しずつ向上している。 (2) 特別活動の活性化 学校行事やボランティア活動を生徒が自主的、実践的に取り組めるように工夫をし、生徒の諸活動が、成功体験につながり、充実感、達成感を得ることができるような援助、指導を更に進めたい。 (3) 就業体験の充実 就職・進学希望に関わらず、全校生徒に参加を勧め、生徒が主体的に自分の課題を克服しようとする意欲につながるような指導体制を構築中である。	
実施内容 (具体的に記入する)	(1) 生徒理解の推進 4月:生徒理解・特別支援教育研修会 スクールカウンセラー3名、スクールソーシャルワーカー1名を助言者として招いて行った。 8月:特別支援教育研修会 富山大学教育・学生支援機構学生支援センター(アクセシビリティ・コミュニケーション支援室) 主任コーディネーターである特別支援教育士の日下部貴史氏を招き 「発達障害における思春期と青年期に必要な支援」と題して講演をしていただいた。 9月:生徒理解研修会 スクールソーシャルワーカー山岡和夫氏による 「生きづらさを感じる生徒の理解と支援」と題して講演をいただき、 職員全体で協働的・機能的なチーム支援について研修を行った。 (2) 特別活動の活性化 生徒には各学校行事の目的を意識して取り組むよう指導し、実施後は個々に振り返りの時間を作り、キャリアパスポートの作成や次回の改善に繋げるためのアンケートを実施した。また、スポーツフェスティバル、新川キャンパスフェスティバル等の行事では生徒主体である活動が多くなるよう計画した。さらに、各ホームルームから選出された生徒で組織される委員会活動中に会合課題を協働して解決していく活動になるよう工夫した。思いやりの心、自主性、協調性の育成を目指し、かつ地域との交流を図ることができるボランティア活動や里孫活動を計画した。 (3) 就業体験の充実 全校生徒に就業体験のねらいを説明し、1年次から経験をするよう勧めた。生徒個々の実態に即した計画・立案の事前指導、事業所の評価表を活用した事後指導を実施した。	
取組による成果 (プロジェクト学習推進の観点から)	(1) 生徒理解の推進 生徒1人1人の特性について教員が理解すること。また、その課題を把握することで解決に向かう方法を検討した。生徒の具体的な指導(就労支援を含む)に繋がり、教職員の資質、意欲を向上させることができた。また、支援体制の推進をさらに図る必要性を共通理解することができた。 (2) 特別活動の活性化 スポーツフェスティバルは生徒会執行部が各クラスの意見や要望を確認しながら、生徒自身が新競技種目を実施するにあたり出てくる課題を考え、話し合いによって解決していくことで企画から運営までを担った。事前の試行で生じる課題を、先生の意見を参考にしながらも生徒主体で解決し、当日実施できたことが生徒の自信につながった。多くの生徒が自分の役割、責任を果たし、自己有用感を高めた。 日頃の学習成果の発表機会である新川キャンパスフェスティバルは生徒会執行部を中心とした多くの生徒の尽力で準備が進められた。各年次やクラスの取組みでは協働的な学びや課題を発見し解決する学びを経験することにつながった。生徒一人一人は集団の中で何らかの役割を果たしたことで充実感、成就感を得ることができた。 福祉施設でのボランティア活動、里孫活動に生徒は自主的、意欲的に取り組んだ。制作活動や交流活動を通じて、生徒が達成感や協力する喜び、他者を思いやり支え合う心、感動する心を持った豊かな人としての成長につながった。学校行事、ボランティア活動、里孫活動等に積極的に参加する生徒が増え、得られた成果が自信につながっている。 (3) 就業体験の充実 生徒の主体的な進路学習を促すために、生徒自身が希望する業種や仕事内容、地域等を考慮しながら多くの事業所の中から就業体験先を選択した。就業体験後の事業所の「評価表」により、自分自身の適性を深く知ることに繋がった。今後の進路実現のための自分の課題(取り組むべきスキル等)を知る貴重な機会となった。	
対象者(学年・人数など)	生徒理解:約30名、特別活動:全校生徒99名、就業体験:約30名	
実施実績	4月	生徒理解・特別支援教育研修会
	5月	グリーンコンサート①(文化部発表会)
	6月	スポーツフェスティバル、里孫活動
	7月	里孫活動
	8月	特別支援教育研修会、就業体験
	9月	生徒理解研修会
	10月	新川キャンパスフェスティバル
	11月	里孫活動
	12月	球技大会、里孫活動
	1月	里孫活動
	2月	特別支援教育まとめ全体研修会、グリーンコンサート②(文化部発表会)、就業体験
	3月	